



# 高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F  
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006  
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

## 今号の内容

- ▶第62回全国高P連大会和歌山大会
- ▶高校生と語るつどい
- ▶第56回定通生活体験発表大会
- ▶支部だより

## 第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会にて受賞



### 第61回全国大会開催地に対する特別感謝状受賞 特別感謝状受賞のご報告

北海道高等学校PTA連合会 会長 中島 圭

日頃より北海道高等学校PTA連合会に対しまして、ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成24年8月22日から24日まで、和歌山県におきまして第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会が開催されました。この大会の開会式・表彰式におきまして、第61回全国高等学校PTA連合会大会北海道大会の主管を務めた北海道高等学校PTA連合会並びに実行委員長である榊原綾子氏（現本会顧問）に対しまして全国高P連相川順子会長より特別感謝状を授与されました。本会報を通じて皆様にご報告申し上げますと共に、この北海道大会の開催にあたり、ご協力下さいました各単位PTAの皆様にご心よりお礼を申し上げます。「いのち輝け！」～人・夢・愛～ひたむきに頑張る君たちを応援したい！このテーマのもと開催された北海道大会は、全国から1万人近い参加者の皆様をお迎えし、大

成功のうちに終了することができました。今でも来道された参加者の皆様や理事・役員の皆様から「素晴らしい大会でした」「記憶に残る大会でした」とのお褒めの言葉を頂きます。また、次期開催地の皆様は「北海道に追いつけ！追い越せ！」と目標としている大会でもあります。このような素晴らしい大会が開催できましたのも、準備の段階からご協力を頂きました皆様の「ひたむき」なお力があってのことと考えております。改めてここに皆様に対しまして敬意を表し、感謝を申し上げます。

北海道大会に向けた熱意と情熱を今後とも共有しながら、明日からまた、時代を担う子供たちに向けた活発な活動を、各単位PTAや各支部において行っていくと、元気で夢のある未来を北海道から発信したいと考えます。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 第61回全国大会開催地実行委員長に対する特別感謝状受賞

## 「神様からの贈り物」

北海道高等学校PTA連合会

顧問 榊 原 綾 子

もしもPTAの神様がいらっしゃるしたら。

PTAで出会った、そして共に活動してきた多くの方々は、きっと、神様から私への贈り物だと思っています。

北海道の広い大地。各々の地域にはそれぞれの特性があり、環境も職業も違う私たちが、たった一つの「子どもたちのために」という思いだけで集まりました。忙しい仕事の中時間を作って、仲間と車座になって熱く語り合う姿、子どもたちの頑張りに精一杯の声援を送る姿、感動に涙する姿。そんな素敵なPTAのお仲間たちに出会えたことは、まさに奇跡。神様からの贈り物です。

そして迎えた23年全国大



会北海道大会を、この素晴らしい皆さんと迎えられたことは本当に幸せなことでした。

全国から参加された皆様に感動を与えることができたのは、これまでの北海道各単位PTA、各支部の皆さんの思いの深さ、充実した活動が基盤となり、そして大会当日のスタッフのホスピタリティに徹した姿勢や笑顔、一つ一つの課題に丁寧に、誠実に取り組んだことがもたらした偉業です。

今回、和歌山大会で北海道高等学校PTA連合会は特別感謝状をいただきました。そして実行委員長であつた私も特別感謝状をいただきました。この感謝状は、皆様と共にいただいたものです。そう、神様から私たち皆様へのご褒美なのでしょう。私は、この感謝状を素敵な皆様との思い出と共に、大切にお預かりしたいと思います。

各単位PTA、会員の皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈りしています。

## 平成24年度役員表彰

## 受賞に感謝して

(北海道高等学校PTA連合会 前副会長)

北海道留萌高等学校PTA

顧問 松 本 衆 司

そして何より、すべての子どもたちが笑顔で、その命を輝かせることが出来ますように、心からお祈りしています。私も、皆さまから

いただいたたくさんのおものに少しでもお返しが出来るように、努めていきたいと思っています。神様からの贈り物に感謝しつつ・・・

第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会におきまして表彰を受け、役員等の部で登壇を許され、極め付けが受賞者を代表しての謝辞を述べさせて頂くというハレの場を与えていただきました。

振り返れば、長いPTA生活でありました。

保育所・幼稚園・小学校・中学校そして高等学校・・・

その度に、こんな場面に遭遇しました。

「PTA?そんな面倒な事は、やりたい人にやらせ



「あうあ、誰も引き受けてくれない」まるでランプのパパ抜きでジョーカーを引いたときのような表情。でも、本当にそうでしょうか。

PTAとは保護者と教職員の皆様が、子供たちのために力を合わせる場所、特に高校においては自己実現を応援する組織であり、その役員たるや、一番近くで子供たちの成長を見守れる特典があります。

そんなありがたいPTA活動でしたが、私の場合は自分自身にも特別ボーナスをいただきました。

留萌学区だけでなく、北海道の同志の皆様と出会うことができ、全国に向き合ってきた多くの仲間とも同じ時間を過ごすことができました。

力不足ながら、道高P連副会長として、全国高等学

校PTA連合会専務理事として、「子供たちのために」を合言葉として活動できた事、本当に多くの仲間を支えられての日々を改めて感謝いたします。

現在は単Pにおいて顧問職をいただいておりますが、これからも地域の一員として子供たちの成長をお手伝いしたいと考えます。繰り返になりますが、PTAを通して多くの仲間ができました。本当に財産だと思っています。長い間お世話になりました。ありがとうございます。

## 広報誌

## 和歌山大会にて紹介されました



北見緑陵高校



広尾高校



# 第62回全国高等学校PTA連合会大会 和歌山大会報告

北海道苫別高等学校 総務部長（PTA事務局） 植 松 正 人

## 開会式・全体会

8月23日（木）の開会式

及び全体会は、和歌山ビッグホエールと和歌山ビッグウエーブの2会場で行われました。開会式前には和歌山県立向陽中学校・高等学校合同の吹奏楽部によるアトラクションが行われ、全国からの参加者を歓迎するとともに和やか雰囲気の中、西原英男実行委員長の大会開会宣言で本大会が開幕しました。

西原実行委員長は、開会宣言の冒頭に、つながりを大切にした大会を目指すとして、今大会の講演、分科会の概要、ねらいについて説明されました。併せて、子どもたちを取り巻く環境の変化に触れ、加速度的なものや情報が溢れ、個人主義や合理主義が席巻する社会において、我々は地域のコミュニティに積極的に参加することをはじめ、もって政治や社会に対して関心を持ち、子どもたちの健全な育成を図らなければ

ならないと挨拶されました。

続いて、相川順子、一般社団法人全国高等学校PTA連合会長が挨拶に立たれ、今和歌山大会が高P連の一般社団法人としての第1回大会であることを報告されました。さらに、つながりを大切にした大会をめざすことを強調され、昨年の東日本大震災及び紀伊半島の豪雨災害に触れ、高P連としても昨年に引き続き義援金活動を継続するとともに、地域、人々のつながりの大切さを再認識し、そして立ち上がらなければならないとしました。

さらに、PTA活動の役割を再度考えることが必要であるとして、高校生の抱える課題は保護者の課題でもあり、情報化をはじめ、めまぐるしく変化する社会を生き抜く生徒を育てるためには、保護者が正しい情報を選択し、子ども・地域も共に成長する。そして、全体が輪になるような環境

作りが大切だと式辞を述べられました。

来賓としては、文部科学省生涯学習政策局長 合田隆史様、和歌山県副知事 下宏様、和歌山市長 大橋健一様からそれぞれご祝辞を頂戴した後、PTAにご尽力された方々の表彰式が行われました。なお、この表彰において、北海道は第61回全国大会開催地に対する特別感謝状を受賞するとともに、同大会実行委員長でありました榎原綾子顧問が特別感謝状を授与されました。

## 講演

午後からは、和歌山大学観光学部の尾久土正己教授の「はやぶさと和歌山大学の関わり」と題した講演が行われました。講演でははやぶさのプロジェクトのアウトリーチとしての役割をお話されました。アウトリーチ



とは手を伸ばすという意味で、その一つは、科学の成果をわかりやすく市民に伝えることをねらいとして、音楽でははやぶさを表現すること挑戦し、音楽ビデオを作成した成果についてお話しされました。もう一つのアウトリーチとしては、はやぶさの宇宙での様子をインターネットで中継したことでした。

和歌山大学とJAXAの関わりの中で、学部・学科に係らずに宇宙に挑戦する、学生に体験させる、地方の大学でもできる、高校生にも参加させるなど、創造性豊かな取組について、

## 基調講演

ご講演頂きました。講演に引き続き、今年度は「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、その7年間の歩みというテーマで宇宙科学研究所のおなじみ川口淳一郎先生

の講演が行われました。はやぶさの目的や地球を飛び立つてから帰還するまでの経緯や様々な困難やご苦労について、ユーモアやわかりやすいたとえ話を交えてお話ししてください、講演の最後まで、大変興味深く拝聴させていただきました。

はやぶさのプロジェクトやその成功は、一見、子どもたちの教育や子どもを取り囲む大人には関係ないように思えましたが、講演を聴くうちに、その成功を導いた独創的な取組や思考が、これからの子どもたちの教育においてもとても重要であると感じました。たとえば、「新しいことをはじめ

るには、自らの規制を外さなければならぬ」、「経験の豊富な人は経験の不足している人にアドバイスすること」、「起業する精神、型破りが必要」、「オリジナルティを大切に」、「スペシャリストを目指せ」、「W

HATを考える」、「創造の国に変わっていかねければならない」、「高い塔を建ててみなければ新たな水平線は見えない」など、多くの印象的なフレーズで語られました。

今回の講演を通して多くのことを学ばせて頂きました。今後の日本を支え、発展させる人材育成の観点など、取り組みなければならぬ多くの示唆に富んだ講演でした。

## まとめ

本来であればPTA会長をはじめ役員様が出席されるところですが、お仕事の都合で残念ながら参加出来ませんでした。また本校校長についても校務の関係から参加できず、代理としてPTA事務局である私が参加させていただきまし

た。連日35度を超える猛暑の中、移動を含めて3日間の大会参加でしたが、この大会で得た多くのことを今後のPTA活動に生かしていきたいと思ひます。

最後に大会を運営・実行されました和歌山県高等学校PTA連合会の皆様及び関係の方々に感謝申し上げます。大会報告といたします。

# い」～21世紀をどう生きるか～

留萌支部

テーマ

## 『観光 ～地域の「もてなし力」を学ぶ～』

8月4日(土)・5日(日) 留萌管内から7校64名の生徒・保護者・教員が参加し、「留萌市海のふるさと館・るもい健康の駅」そして留萌市内・増毛町内を活動の場として、「高校生と語るつどい」が開催されました。

講演を聞き、それに沿った分科会で協議を深めるといふ、例年行っている連合会の示す標準例とは少し違った形で留萌らしいものが何かできないか、そんなところから、今回の企画がスタートしました。

留萌港湾事務所のご協力で船を出していただき、留萌の港と町を船上から見学すること、留萌と増毛の駅前通りをグループで散策し、お店の方たちと買い物と会話を通じて触れ合うこと、短い距離ですが留萌本線「留萌」増毛間を列車で移動することなどなど。

あれもこれもと欲張った結果、スケジュールが過密になり、参加の皆さんには大変忙しい思いをさせてしまいました。密度の濃い2日間になったのではないかと思います。

### 「1日目」

(1)ボートウォッチング(留萌港で乗船体験)

港湾事務所で留萌市と港の歴史的な関わりと役割について説明を受けたあと、二つのグループに分かれて事務所所有の高速巡視船



「ゆりかもめ」の乗船体験。海から見る留萌の景色に新鮮な驚きの声が上がりました。

(2)留萌駅周辺と増毛の町並み散策

6つのグループに分かれてあらかじめ設定したお店や史跡を回り、買い物やお店の方との会話をとおして、それぞれの「もてなし」について観察し考える場。翌日の分科会の柱となる活動で、生徒・保護者・教員の混合グループが和気藹々の中、意欲的に情報を収集しました。

(3)留萌本線「留萌」増毛間 体験乗車

今は単線一両編成の列車ですが、初めて乗ったという生徒も多く、車内は明るい笑い声であふれました。

(4)交換会(夕食後の宿舎にて)



件(戦争が終わった夏に)終戦直後の留萌沖で、多くの引き揚げ者を乗せた3隻の船が国籍不明の潜水艦によって沈められた悲惨な事件。この記憶を風化させることなく、後の世代に引き継ぐ取り組みとして、留萌高校生生徒会生徒によってデパートとともに朗読会という形で発表されました。この事実を知らなかった参加者も多かったと思います。が、平和について考えるきっかけになったのではないかと思います。

(2日目)

(1)分科会インブレインストレーニングによるグループ協議

前日に留萌と増毛を散策して得た情報と感想等をもとに、グループごとに意見を出し合い、観光を通じて町やお店を活性化させる方

策について考える作業。生徒も大人も一緒になり、付箋をベタベタ貼りながら活発に意見を出し合う姿がありました。

(2)分科会Ⅱグループ発表

グループごとにまとめられた活性化の方策について、キャッチコピーを含めた提案が各グループの代表から発表され、様々な視点からの発想に大きな拍手が送られました。

今回の当番校である留萌高等学校の後藤寿樹校長と、ご多忙の中参加してくださった道高P連の中島圭 会長から、二日間の活動に対する感想と助言をいただき、事業の全てを終えました。「もてなし力」、このことは、訪れたお店でのやりとりはもちろんですが、船やバス、列車といった乗り物、食事の賄い、宿での交流など色々な場面でお互いの距離をどう感じたか、つまり、どのようにつながり、互いに心地よい感覚を味わえるのかを体験することに尽きると思っています。

観光を生業とする人たちを観察しながら、自分をその人達に置き換えてみる。そのことが多くの優しさを生み、無用なトラブルを回避する一番の方法だと思っています。そう思っ



今回参加した生徒の全てにとつて、この2日間の経験が大きな心の財産となることを願い、最後に、このような機会を与えていただいた道高P連に感謝とお礼を申し上げ、報告といたします。



# 平成24年度「高校生と語るつど

テーマ

十勝支部

## 互いに助け合い未来を築く



高P連十勝支部は、8月6日（月）・7日（火）の2日間、十勝川温泉ホテル大平原を会場に北海道高等学校PTA連合会十勝支部「高校生と語るつどい」21世紀をどう生きるか」を開催致しました。当日は管内の高等学校18校から保護者・教員・生徒合わせて100名が参加しました。初日は、ジャイカ北海道国際センター（帯広）プログラムコーディネーターの木下秀俊氏による『海外ボランティアで学んだこと』と題した講演を開催しました。木下氏は静岡県出身

で酪農学園大学大学院獣医学研修課修士課程を卒業後、青年海外協力隊としてアフリカ（ザンビア共和国）をはじめ数ヶ国で様々な支援活動等を行ってききました。その経験を踏まえながら「海外の状況や自分が経験してきたこと」について熱く語っていました。講演の後、8班に分かれて自己紹介をし、講師の方から与えられた4つテーマについて意見交換を行いました。最初は戸惑っていた生徒たちも、時間の経過と共に活発な意見交換を行い、予定されていた時間を超える分科会となりました。各班の代表による意見交換の発表では、「日本がどれだけ恵まれているかを実感することが出来た」「現代社会に必要なのは協力。不足しているところは互いに助け合う必要がある」などの意見が出されました。その後、十勝管内の「木材の町 新得」の特徴を生かした季節や天候に左右されない室内競技として誕生したフロアーカーリングを体験しました。チームのメンバーは生徒、保護者、先生方で構成（4名）されており、各チーム一丸となって熱い戦いが繰りひろげられました。夕食のバイキングでおなかを満たした後、就寝までの間、自由交歓の時間となっており温泉を



楽しんだり、ロビー等で友達になった生徒同士で会話が弾むなど、各自で楽しい時間を過ごしていました。2日目は、音更町にある柳月スイートピアガーデンのデコレーション体験と帯広市内にあるジャイカ国際センターでの施設見学と活動概要講話が行われました。当事業に参加した生徒・保護者・教員からは「他校の生徒や保護者の方と交流ができ、とても良い経験になりました」「学校では体験できない事が沢山あり、とても貴重な経験となりました」「友達ができ良かったです」「将来もし機会があれば、発展途上国に行つて手助けをした



い」「我が子ではない高校生とふれ合えて新しい発見ができました」等の感想が寄せられました。今回の「語るつどい」は、生徒のみならず保護者や教員にとっても貴重な経験となりました。最後に全日程を通して事故もなく無事に終了することができました。ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



最優秀賞

## 日々、変わる

北海道札幌琴似工業高等学校定時制

4年 町田 亜実



目に映る全ての物、耳に聞こえる全ての音、そして周りから痛いほどに伝わる緊張感や高揚感が、今でも鮮明に思い出せます。

二年生の終わりに、HRで「コミュニケーション能力アップ」をテーマにした映画をつくらうという、課外活動のチラシが配られました。正直、学校の前にはバイトがあり、成績に関わるわけではないと、読んだチラシはすぐに捨てました。しかし、その日の放課後、保健室に入った途端、養護教諭の中村先生に、あなたの力が絶対必要だ、素晴らしいことになるから参加しなさい！と力説され、参加することになってしまいました。一回目の実行委員会、集まったのは生徒二十名と大学生が七名。中村先

生が映画の説明をしているうちに、皆なんだかやる気になっていったのには驚きました。映画の主人公は、自分だけが正しいと思い、人の悪いところばかりを見て、嫌な奴だと決めつける。そうやって孤立していく、そんな男の子。それはまるで、入学当初の私でした。私が琴似工業高校の全日制を中退し、一年生から入学し直したのは十七歳の時。幼稚で騒がしく、数分も静かにできないクラスメイトに驚きと不満を抱えていました。こんな人達とは関わりたくない。そんな考えが伝わったのか、気がつけばクラスで一人きり。聞こえよがしに悪口を言われ、歩くだけでも笑われる。相談はできなかつた。「私はクラスで孤立していて、毎日デブだブスだと言われて、授業であてられなければ声も出さず、歩くときは顔を伏せて床を見ながら、休み時間は携帯を開いてメールをするふり、体育のバドミントンでは皆の死角

になる所で、目立たないように壁打ちをしています」そんな説明をして、家族や友人にまで「いじめられっ子」に見られたら、恥ずかしくて情けなくて、生きていけないと思いました。でも、全日を辞めた私に残された道は琴定だけでした。何とか自分の力で解決してくては、勇気を振り絞って、体育の時間、私は女の子のグループに「一緒にやってもいい？」と震えながら声をかけました。最初は、気まずく、ただコートの中に入り込んでいるだけのような状況でした。それでも死角的に隠れているよりずっと良かった。そのうち、教室で話すことも当たり前になっていきました。いじめがあつたのは事実。でも、映画の主人公と同じように周りがすべて悪い！とレッテル張りしていた私もそこにはいません。

あつている人にこそ参加してほしい。私と同じような失敗をしないで、しているなら気がついてほしいと、みんなに参加を呼びかけました。相手のいいところを見つけてという意味の、ポジティブコレクション、この言葉を学校中に根付かせたい！そうしたらいいじゃんてなくなる。本気でした。

一人のせいで映画をダメにしたくない、という声が増えていったのです。製作チームとして指示を出し、演出をしていた私も、暴走族のレイディース役で出演するほど熱中していました。そうして完成した私たちの映画はDVD化され、全道の中学、高校に配布されたのです。一年以上かかった映画製作。最終的には全校の約半数六十七名と、多くの先生、大学生の方が参加してくれました。撮影最終日、映画製作のメンバーでタイトルを叫んだ光景。「ハッピーみらくるコミュニケーション！」「そうやって、一緒にやって叫んだのは、同じ学校に通っていないから、映画製作がなければ目も合わせなかつたような人達ばかり。みんなと一緒にやりきった達成感、学校全体が仲良くなったように感じました。

私4年間を過ごした琴定には、廊下で目が合えばおしゃべりする映画製作のメンバー、何でも話せるようになったクラスメイト、困っていたら親みたい心配をしてくれる先生方がいます。たくさん大切な人が、たくさん大切な気持ちを教えてくれました。また、先日、6年間つめてきたスーパールの採用試験に合格し正社員になることが決まりました。琴定で学んだ、コミュニケーション能力を活かし、どこよりも仲の良い職場に出来るよう努めていきたいと思っています。そして、心豊かで楽しい人生を送るためにも、たくさんの人と関わって、無駄だと思ふ事もやっていく。そうやって、日々、変わる。とっておきの目標です。





# 平成二十四年度 臨時理事会報告

日時 平成24年11月18日(日)  
14:00～15:40

場所 全日空ホテル  
3階 翔雲の間

出席者 20名/24名 ※代理  
出席 北村敏貴(原理  
事代理)、宮上秀仁(小  
室理事代理)、阿部公  
明(鈴木理事代理)、  
新谷正明(武田理事代  
理) ※事務局 宮川恒  
美、小野修志

欠席者 4名(中村、馬場、高井、  
滝田理事) ※馬場、滝  
田理事は委任状提出。

## 会議次第

■理事会成立宣言

出席者が3分の2以上であり  
理事会は成立。(事務局長)

■会長挨拶

中島圭会長挨拶

■議長・議事録署名人・記録者選任  
議長 佐々木敏則(胆振支部長)

記録者 中島茂則(後志支部長)

議事録署名人 大貫司(監事)、池本章(監事)

■前回事務録確認(第1回事務録)  
議事録

1 報告事項(事務局より報告)

(1)理事会・委員会での議長・記  
録者選任と議事録作成につい  
て

(2)平成24年度第62回全国高P連  
大会(和歌山大会)

ア 参加者数 290名。  
イ 北海道関係者の表彰  
……道高P連・松本専務  
理事・榎原理事

ウ 第1分科会発表  
……札幌あすかぎ高校  
(発表者・原貴彦会長)

エ 全国(和歌山)大会で  
のPTA便り展示校  
……広尾高校・北見緑陵  
高校

(3)年間事業計画について  
ア 「高校生と語るつどい」  
(留萌支部・十勝支部)

イ 「北海道シンポジウム」  
(十勝支部)

ウ 「スマホ研修会」の開催  
予定。(12月2日・札幌)  
(WYSHは今年度中止)

エ 次年度行事の開催曜日中へ  
のご意見は?(後半の諸  
連絡の中で意見あり)

(4)第63回全国高P連山口大会  
・参加申込が各支Pからの直  
接ネット方式になる予定だが  
詳細未定。決定次第報告。

(5)各支部に自転車事故防止のD  
VD2枚配布。活用へのお願  
い。

・支部事務局長会議で配布、  
説明済み。各支部で活用をお  
願い。

※高校生が加害者の高額賠償  
事故多発。

1件の金額(全国で8000万  
円、北海道で2000万円)

(6)全道表彰について  
・平成25年3月閉校の高校は  
3月までに提出。平成26年3  
月閉校の高校は1年後の退任  
を待たずに申請する可。

(7)全国高P連事務局からのイン  
フォメーション(資料参照)

(8)その他(報告事項に関する質  
問・意見等)

ア 白鳥理事・平日開催の会  
議について道教委の対  
応はどうか。

イ 校長・PTAの会議等は  
校長・教頭・教職員等に  
とって本来的職務にあつ

るかどうかが問われ、年  
休・職専免で対応してい  
る方も少なくない。  
議長・理事会の開催曜日  
については特に意見がな  
いので役員会に任せたい。

中島会長・皆さんのご意  
見をいただき正副会長の  
役員会で決定したい。

2 審議事項  
(1)組織改革等検討特別委員会か  
らの提案について  
(別紙資料確認後) 村上委  
員長より「内容をご審議いた  
だき、平成25年4月1日から  
適用。役員旅費規定や会則は  
2月の理事会に諮りたい」と  
下記について提案。

ア 北海道高等学校PTA連  
合会事務局職員就業規程  
(案)

北海道高等学校PTA連  
合会臨時職員就業規程(案)  
・職員就業規定(資料1  
13ページ)はこれまでの給  
与規定も含めて就業規定と  
する。また、臨時職員就業  
規定(資料1/4ページ)  
は臨時職員の規程をまとめ  
た。

イ 北海道高等学校PTA連  
合会会計事務処理規程(案)  
・資料1/6ページに基づ  
き、会計と事務の文書関係  
を集約し、理事会の議事録  
を毎回残すように総会に諮  
ること等が説明され、その  
過程で、特別委員が社会保  
険労務士の田北氏に法律面  
での確認もしていただいた  
との説明があった。

・関連の質疑はなく、提案  
がすべて承認。  
ウ その他(今後の検討特別  
委員会の業務予定等につい  
て)

(ア) 村上委員長

今後、2月の理事会に向け、  
「事務所所在地」、「監事の  
職務」、「理事会の議事録」、  
「役員旅費」等々、会則、  
会則施行細則を含めて検討  
し、提案したい。

(イ) 事務局長  
提案の趣旨は、単に「道に  
準拠」とあるものをできる  
だけ明文化して分かり易く  
するところにある。

(ウ) 中島会長  
皆さんの意見をいただきな  
がら会則・細則・規程等を  
整備し、より良い道高P連  
にしていきたい。

(2)その他  
特になし

3 諸連絡等  
(1)スマホの研修会の参加依頼。  
(事務局長)

(2)十勝支部…これから、高校生  
と語るつどい等の事業報告、  
収録などを他の支部でも作成  
してはどうか

中島会長…支部の負担になら  
ないよう配慮が必要だが、作  
成していただくのなら、有り  
難い。

事務局長…各種ローテーショ  
ンは各委員会の調整を基に、  
同年に同じ支部に重複しない  
よう調整したい。ご協力を。

中島会長…理事会の開催曜日  
について各支部長の意見は?  
各支部長…土曜、日曜の支持  
が多く、「こだわらない」「平  
日開催」も少数あり。

(3)2月16日(土)の第2回理事  
会は委員会を先に実施する可  
能性あり(村上副会長)

議長退任挨拶  
佐々木敏則(胆振支部長)

閉会

北海道高等学校PTA連合会は、高校生の  
ための「災害補償制度」を主催しています。

平成23年度 事故・疾病状況  
(2,145件)

発生状況別

(平成24年10月30日現在)

1 部活活動中	1,418件	9 授業中	13件
2 体育授業中	415件	10 遠足	6件
3 通学中	105件	11 その他	4件
4 休み時間中	58件	12 宿泊研修	4件
5 球技大会	47件	13 学年レク	3件
6 体育大会	43件	14 修学旅行	2件
7 学園祭	13件	15 生徒会活動	1件
8 学園祭準備中	13件		

(※死亡事故1件)

多くの学校の参加を期待しております。

私にジャストフィットする保険を選ぶなら

いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりな「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。



エース保険  
ace Insurance

## 支部だより

## 旭川支部

## 今年度の支部活動状況と第62回北海道高等学校PTA連合会(旭川・留萌大会)を振り返り

旭川支部長 蜂谷規彦

(北海道旭川南高等学校PTA会長)

旭川支部は、現在21校、PTA会員数9,859名が、「子ども達を思い、子ども達と共に成長していく」と、互いに情報交換をしながら活動しています。平成24年度の総会は、旭川グランドホテルにて、5月18日(金)に、道高P連から榊原会長、宮川事務局長をお迎えして、総勢126名で盛会に開催されました。冒頭、榊原会長(現顧問)から「子ども達の今日的課題は、スマートフォン

の普及で従来の携帯電話とは違った課題が出てきているなど、様々な課題解決のために今後も取組を進めたい」と述べられ、ご挨拶を戴きました。当支部の活動としては、6月に「広報担当者集い」を開催し、広報紙作成の苦労やその課題として楽しさや喜びを共有しながら、広報紙づくりのノウハウを学んでいます。次に10月に生徒指導研修会を行い、10月26日(金)の生徒指導研修会には、NTTドコモ安心インストラクターの杉浦由香先生を講師としてお迎えし、「ケイタイ安全教室」と題し、スマートフォンや携帯電話による様々なトラブルの事例、またそれに対する防御法などを、81名の会員が真剣に学びました。近年、ケイタイによって、子ども達が犯罪などのトラブルに巻き込まれ、被害者にも加害者にもなってしまうことが心配されています。いかに保護者が、ケイタイのマナーやルール、正しい使用法などを理解し、トラブルから子どもを守るためにも、貴重な研修会となりました。



また、今年度は、第62回北海道高等学校PTA連合会大会・旭川・留萌大会が旭川において、旭川支部・留萌支部の28単Pが一体となって運営をし、6月15日(金)16日(土)の両日開催しました。大会には全道各地より、1,162名の会員の皆様に参加され、ご来賓に全国高P連の相川順子会長、西川将人旭川市長にご出席を戴き、主催者を代表して挨拶された、中島会長は「子ども達のためにと言う強い思いを、こ

れからのPTA活動の糧としていただきたい」と述べられ、次に行われた、神山陽氏の講演会ではユーモアのある語り口で会員の皆様の時間が忘れるほど引き付けられました。また、2日目の各分科会は、旭川東高校、旭川商業高校の2校に分かれ、参加者の活発な話し合いが行われ、思い出に残る、有意義な大会になりました。ご参加を戴きましたすべての皆様、そして日頃より、旭川支部を支えていただいている方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 見部北支

## 「地域の宝もの」を次代へ繋ぐ

北見支部長 釜澤達也

(北海道北見柏陽高等学校PTA会長)

北見支部は現在二十六校、二十九単Pの加盟するオホーツク海に面した広大な面積の支部であります。本年は、当支部内の女満別高校が全校生徒百三十二名と小規模ながら北見支部で四十年ぶりに選抜甲子園大会の出場という快挙を成し遂げました。女満別高校のある大空町はもとより近隣地域の応援の下で選手たちのハッパツとしたプレーを観させてもらい、正にPTCAの基本形であったかと感じました。

さて、当支部では五月十八日に北見に於いて支部総会を開催し、二十三年度決算、二十四年度予算、役員改選などの議案承認をいただきました。また、道高P連より松本副会長にご出席いただき、昨年の全国高等学校PTA連合大会(北海道大会)のお礼の言葉をいただきました。

続いて六月八日、九日と紋別市に於いて、紋別高等学校PTAの主管の下、参加者百四十六名の中で北見支部研修会を開催させていただきました。

研修内容としましては、第一部、北海民友新聞社代表取締役、新沼透様に「地域の宝もの」と題し講演をいただきました。

地元紋別市にある旧跡等の中から知名度の高くない所でも歴史、経緯を辿ればその地域にとって大切な宝となる事を学ばせていただきました。また、その旧跡を活用し、子どもたちに昔の生活を体験実習させて成果を上げている事に感銘いたしました。私達大人が、普段何気なく通り過ぎて見ているものを、これからの次代を担う子どもたちに引き継いでいってもらうためにも、大切な教育の一つであると思いました。

その後、三分科会に分かれ「時代の要請に応える魅力ある学校づくりを目指す」と、「子どもと保護者が共に学び、成長するための学校と家庭の連携」、「教育の場となる環境づくりとPTA活動」という三テーマで活発な意見交換が行われました。二日目には、研究討議として七分科会に分かれ、各学校のPTA活動について、フリートーク形式で話し合いました。また、懇親会においては紋別高校の鈴木PTA会長自ら盛り上げ役となつていただき、大変楽しいひと時を過ごさ

